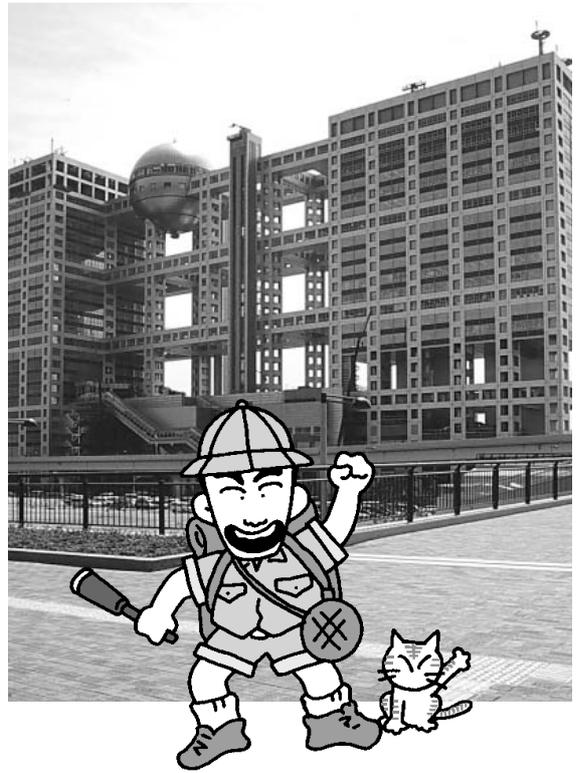


# リアルワールドから サイバースペースへ。 インターネットの 検索エンジンを 探検してみたが……



## 第1回 検索エンジン編

illustrator: Kaori Takahashi



資料の宝庫、インターネットは本屋に似ている？

OCN:NTTが97年より開始する予定のコンピュータ通信ネットワークサービス。画期的な料金設定が話題になった。OCNとはOpen Computer Networkの略。

これまでプロバイダーや回線接続というインターネットまわりを探ってきたインターネット探検隊。先月、OCNが開始されればその使命を終えること確実に世間(の一部やっかみ方面)で言われているアナログ専用線をつないだところで、ちょっと方向転換。今月からインターネットそのものを探検することになった。その第1回目はウェブの「検索サービス」のお話である。

### ◎ 本屋さんで目的の本を探すお話

テーマが決まった某月某日、例によって「しかしね～、検索サービスってアレでしょ？ 単にキーワードを入るとURLが出てくるという……」という話をしていたら、ウェブと検索サービスの重要性についてこんな話を聞かされてしまった。

某コラムニストによれば、インターネット、特にウェブはでかい本屋と似ているのだそう。そして本屋に来る客(つまりユーザーですね)には2種類の人がいるとい

う。第一のタイプは、ブラっと入ってきて手当たりしだい本を開いてながめる人。こういう人は別に最初から何を買うという目的はないのだけれど、気に入ったものがあれば買っていくという、どちらかというとお気軽な人である。もう1つのタイプは、最初から買う本を決めてきて、一目散に目的の本があると思われる棚に走り、真剣に背表紙を見ながら本を探す、結構マジな人。実はウェブを利用しようとする人にも、この2つのタイプがあるんだそう。

そう言われると、そのとおりだなぁ……でも、よく考えると、同じ自分の中に時に応じてこの2つの欲求が出てくるんじゃないのかな？とも思うんだけど、それはともかく、まだ続きがある。

最初のタイプの人には、ウェブというのは非常に楽しい道具なんだそう。というのは、本と違ってウェブのページにはハイパーリンクという仕組みがあり、ページの中にあるリンクボタンをクリックすれば、それにつながっているページに直接ワープしちゃう。いちいち本を開いて、棚にしまっ

て、次の欄に行き、別の本の目次から関係しているページを探して.....なんてことをやらなくても大丈夫なわけで、本屋で流し読みをしている人よりも、もっと簡単に内容をつまみ喰いすることができる。

ま、基本的にそういう人は本屋、つまりウェブっていう場所が好きだし、「ブラウザー」っていうのは、その名前のおり「流し読み」するための道具なわけで、ブラウザーを使うと楽にブラブラできるから、ますますクセになる。

ところが問題はあとのほうのマジな人。この人はもともと何が欲しいかが分かっているんだから、とりあえず目的の情報に速くたどり着きたい。だけど、道具としては「流し読み」に便利なブラウザーしかないし、欲しい情報がすぐに探せるような道具もない。どうやって目的の本を探していいか分からなくて困ってるのに、ブラウザーのほうは何も探してくれないもんだから、知りたい情報を速く見つけたい人はそれ以外のものに頼るしかないのである。

こういう時、実際は本屋の物知り風の店員に書名や著者の名前を伝えて探してもらえば、欲しい本が見つかる場合が多い。情報をすばやく知りたい人はそれと同じことをウェブですればよいのだ。つまり、本屋で店員に質問するかわりに、インターネットでは検索サービスにきけばいいのである。てなわけで、今回はインターネットを本屋にたとえ、「本屋でどの店員がモノを知ってるか」「どの店員ならどんなことに詳しくか」ということをウェブの中で探してみることにする。

## 🌀 検索サービスを検索する

さて、パソコンに向かってまず思いついたのが、インターネットマガジンの小冊子で「検索サービス」を取り上げたやつがあったってこと(3月号ですよ! by編集部)。それを見て検索エンジンにアクセスして...

...と考えたが、それじゃ話が面白くない。ここはそんなものに頼らずに!と思いがらネットスケープを立ち上げると、あるじゃありませんか、ヒントが。そそ、「Location」のボックスの下のとこに並んだボタンの中の「Net Search」というやつ。

そこで、まずはそのボタンを押してみると、画面は突然ネットスケープのサーバーにある「Net Search」の画面に「Infoseek Guide」「Lycos」「Magellan」「Excite」「Yahoo!」という検索サービスの名前が出てくる。

どうやら時々優先的に表示されるサービスが変わるらしいが、この日は「Yahoo!」がサーチのためのボックスを開けて待っている。そこで、まず今回は「日本の検索サービス」をサーチするわけだから、ここに「japan」と「search」というキーワードを入れてみる。ここんとこ、一応アメリカさんの検索サービスなわけだから英語で入力。しかも、2つの単語の間にスペースなんぞも入れるのが常識である。

すると画面は切り替わり、15個のマッチするサイトのリストが表示される。

よくよく見ると、個人のホームページらしきものも入っているが、今回はパスすることにして(だって、アルバイトの店員だったりすると面倒だから)上から順番に正社員らしきサイトを試してみることにする。

## Yahoo! Japan

まずは先頭に表示された「Yahoo! Japan」。ご丁寧にサングラスの「Cool」マークと「New」の印も付いているが、これはYahooが日本に作った子会社のサービスらしい。言ってみればアメリカ仕込みの店員である。

この店員の眼力はどんなもんじゃろ、というわけで早速クリック。が、出てきたのは「Announcing our first sister site - Yahoo! Japan」という簡素なページ。なん



目的の情報にたどり着くのは、けっこう大変?



サーチエンジンにもいろいろ種類があるが.....。

Net Search: Netscape Navigator についている検索機能。

Infoseek: 単語だけでなく、独自の検索構文で検索できるのが特徴。

Lycos: 世界のWWWの約90%を登録しているというサーチエンジン。

Magellan: WWWにつけられる同名のマークで知られているが、検索エンジンもある。

Excite: 類義語で検索してくれる機能があるので、不確かな情報からでも検索できる。

Yahoo!: 検索エンジンの代表格。ジャンルが細かく分類されているので、ディレクトリ検索に便利。



「おやじのいも」のページを探したいのだが……。



日本の店員に聞くのか、外国の店員に聞くのか？  
聞きたい内容によって使い分けよう。

おやじのいも：畑でとれたさつまいもをインターネットで注文できるページ。インターネットマガジン2月号LIFE WITH INTERNETで紹介。  
グラスマーク：クールなサイトにつけられているサングラスのマーク。

とヤフー本社から「今度初めての海外支店を日本に作ったからよろしくね」というご挨拶のページなのであった。

ええい、そのサービスは？ということでクリックするとシンプルなボックス1つと「検索」ボタン、それに索引（よくよく見ると、「A」の「アート」から始まって「S」の「社会と文化」まで、なんだか英語を翻訳して並べた感じの構成）のあるページにたどりつく。

さて、ここで何を探そうかと考える。と、なぜだか分からないが「おやじのいも」というフレーズが頭の中に出てきた。どうやら、以前インターネットマガジンで紹介されていたさつまいもを作っている農家のおじさんのページを見たいという果たされなかった願望が頭の片隅に残っていたらしい。

さて、アメリカ生まれの店員の前でどういふ言葉をかけるかが問題だ。「おやじ」か「いも」か？ う～ん、どっちだ？

とりあえず、「いも」を日本語で入力して「検索」ボタンを押すと、出てきたのは「Yahoo!の検索結果<。/h2>しばらくお待ち下さい。」というのとYahoo! Japanの著作権表示のみ……う～む、こいつ、駄目かもしれない。

じゃ、いいや。次に行ってみよう（それにしても「<。/h2>」っつーのは何？ グラスマークが泣いちゃうぞ！）

### NetPotatoSalad Japan!

いったん、Yahoo!の検索結果に戻って次にリストされている「NetPotatoSalad Japan!」をクリック……すると、なんと「Fatal Error 500」だ。どうやら、この店員は辞めてしまったが、今日は休みらしい。

### What's New in Japan

3番目にリストされていた「What's New in Japan」をクリックすると、どうやらURL

からNTTと分かる全部英語のページが出てきた。ま、アメリカから入ってきたんだから、英語で返事をされてもしょうがないか。「Japanese version is here.」というボタンがあるのでこれをクリックすると、やっと日本語をしゃべってくれる。

このページは「日本の新着情報」というのと「The Internet 1996 World Exposition」、「情報インデックス」、「お知らせ」という4つの項目が一緒になっている。内容的にひかれるものがあるが、わき道に入ってしまうと本来の目的を忘れそうなので、心を鬼にして「情報インデックス」の下にある「Search Page 検索サーバー一覧」というボタンをクリックする。すると登場したのが……

- 検索サーバー登録もの
- 便利な検索窓口
- 全文検索もの
- NTTの新着情報もの
- ホームページ案内もの
- メガインデックスもの

……というもくじ。

このページの中に「検索サーバー入力フォーム」として入力用のボックスと「search」「clear」というボタン（なんでここだけ英語？）さらに「千里眼」「ODIN」「TITAN」というラジオボタンが寄り添っている場所がある。

その下に「全文検索もの」として……

ロボットで拾ってきたテキストをベースに全文検索を提供するもの

- ・千里眼（早稲田大）
- ・WWW全文検索システムODIN（東大）
- ・インターネット情報ナビゲーションシステムTITAN（NTT）

……という解説がある。

なんか「拾ってくる」と言われると情報が落ちてみたいだが、ともかくロボット（よくは知らないが、勝手に相手のサーバーに入り込んで中に書いてある情報を“拾って”くるプログラム？）が集めたデータをも

とにして、こちらが入れたキーワードに合うものがあれば取り出してくれる仕組みのようだ。

## 🌀千里眼を使う

すでにラジオボタンにマークが付いている「千里眼」のまま、ボックスに「いも」だ。そして「search」を押すと、ちょっと待たされて、その結果が……げげ、やたらに多い。

なんと数えてみると(といっても、数字が付いているのですぐ分かるが)670個もある。しかも、最初に出てきた「プロフィールなんです、もう少したくさん書きたいものです」だとか、「幸福!ちよいもて状態!の巻」だとか、とても「おやじのいも」とは関係なさそうなものばっか。確かに文章の中に「いも」は入ってるけどな~、どうしたもんだら?

あ、そだ。こういう場合はネットスケープの一番上にある望遠鏡マークの「Find」ボタンを使って、今度は「おやじ」で検索すればいいの?と思ってやってみると、どうやら今回表示されたものの中には「おやじ」と「いも」という単語の含まれているリンクはないのだ。

う~ん、じゃ、もう1回。今度は「おやじ」で行ってみるか。ということで、ちょうど上のほうに「Put a word or a regular expression or URL:」として空いているボックスの中に「おやじ」を入れてみる(う~ん、我ながら、なんか意味不明な表現)。すると結果が……今度は58個と数がそれほど多くない。そこでちょっと読んでみることにする。

と、最初に出ているそのものズバリの「おやじ」から「副隊長/BUDおやじ坂」……とあって、10番目に「おやじの畑」というのがある。

あれ? さっきまで「おやじのいも」って覚えてたんだけど、言われてみると「お

やじの畑」だったような気もしてきた。う~ん、どうだっけ?と人間の記憶なんてアテにならないもんである。

確認のためにも「おやじの畑」をクリックすると……

「このホームページはニューヨークのパーチャル八百屋に移しました。八百屋コム(<http://www.yaoya.com>)へどうぞ

……と書いてある。

う~ん、おやじさんはどうやらニューヨークに移住しちゃったらしい(うそ)。そこでまたURLをクリック。すると5人(+「へへのもへじ」)の顔写真の入った表組みのページが出てきた。どうやら中に見覚えのある顔が……そそ、右の「販売中の農産物」の中に「さつまいも」というのがある。この人だ。残念ながら「(休止)」と書いてあるが、ともかく写真をクリックしてみる。

すると「おやじといもを作る」というリンクがあり、さらにまたそのリンクをクリックすると「インタラクティブいも畑」(すごい企画である)にたどりついた。どうやらこれがいつか見た記憶のある「おやじのいも」だったみたいだな~。ふうむ。

## 🌀問題はどんなデータをもとにしているか

これで本来の目的は達したのだが、ついなのでNTTのページに戻り、今度は「ODIN」と「TITAN」を試してみることにする。ただし、今回は先ほどの過ちを繰り返さないために「インタラクティブいも畑」と入力してみることにしよう。

まずは「ODIN」のほう。結果は「Nothing Found」である。「なにも見つかりませんでした。検索式を変えてやり直してみてください」と言われてしまった。ここで「検索式」などに深入りすると面倒になりそうなので、今回はパス。

もう一方の「TITAN」のほうでもやって



「千里眼」は本当に便利なの?



「おやじの畑」のホームページは日本からアメリカに移っていた?!



サーチエンジンの特徴をよく見てから利用するのがポイント。

みたが、こちらの話はもっと複雑だった。

どうやらこちらの検索サービスは全世界のサーバーを対象にしているらしく、アメリカやオーストラリア、ドイツなどの国旗とともに結果が出力された(その後、このページからではなく、TITANのページから検索する場合は検索対象とするサーバーの国籍や言語の指定ができることが分かった)。しかも「世界の分野キャンペーン」だとか「理論的粒子及び高いエネルギー物理グループ」というようなワケの分からないものまで入っている。

うーん、どうして?と上っのほうに書いてある「入力されたキーワード」というところを見ると.....

検索式:(インタラクティブ and 畑) or (interactive and field))

.....となっているではないか。

どうやら、この検索装置は単語を分解して、しかもそれを丁寧に英語に翻訳してくれた。その途中で「畑」が「field」になっちゃって、そこから物理学方向の文献が出てきたわけだ。しかし、「いも」はどこへ行ったのか、疑問は残るのである.....。

このあと、「いも畑」「いも」などいろんな単語を両方の検索サービスに入れてみたところ、両方ともに学術関係のURLが数多く出てくる。どうやらこれはデータを拾ってくるロボットの派遣先が偏っているためなのではないか、ということに思い当たった。

つまり、書店員として見ると学術関係の棚を担当してる人なので、脳天気な「インタラクティブいも畑」なんつータイトルの本のことを聞かれても、分からんというワケなのである。

### ◎ ANDかORか?

どうやらロボットもあまりアテにならない(というより、ご主人様のコマンドに偏りがある)ようなので、またもやNTTの「検索

サーバー」ページに戻り、今度は別のデータをもとにしたものをチェックしてみることにしよう。

まずは「NTTの新着情報もの」、つまりNTTが行っている「新着情報サービス」に掲載されたもの(タイトルと簡単な解説文)をデータとして登録し、それを検索するサービスだ。ここには.....

NTT DIRECTORY(NTT)

Wave Search(ソニー)

WWWナビゲーター(インプレス)

.....という3つのサービスがある(おお、インプレスもあるぞ)。

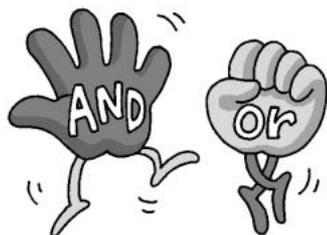
まずは「NTT DIRECTORY」から始めて、「Wave Search」「WWWナビゲーター」まで全部に「おやじ」「いも」「畑」などを入れてみる。

ただし、単語を入れるといっても、検索サービスによって扱いが違っている。例えば「NTT DIRECTORY」では「AND条件」というのと「OR条件」というのが用意されていて、このうち1つをラジオボタンで選ぶようになっている。

ここで考えなければいけないのは、このボタンの使い方である。

「AND条件」とは、店員に「えーっと、『おやじ』という言葉と『いも』という言葉がタイトルに入っている本、ありますか?」とたずねるやり方だ。これに対して、「OR条件」というのは「『おやじ』でも『いも』でも、どっちでもいいんですけど、そういう言葉が入っている本はありますか?」とたずねるやり方。当然、こちらのほうが数は多くなり、ひょっとしたら数が多すぎて収拾がつかなくなるかもしれない。

多くの場合、複数の単語をスペースで区切りながら入れると「AND条件」で探してくれることが多いが、このほかに「NOT」というものを備えた検索サービスもある。これは「『おやじ』なんだけど『いも』じゃないタイトルの本」ということになる(笑)。うーん、なんか笑っているうちに頭が混乱



検索するときは、「AND」と「OR」を間違えないようにしよう。

してきた。

それはともかく、「Wave Search」の場合はボックスが2つ用意されていて、その間の切り替えボタンで「and」と「or」を選択できるようになっている。

また、「WWWナビゲーター」では「検索文字列」のほかに、検索対象として「名前」「所在地」「URL」「説明」などを多重で選べるようになっており、説明のHTMLの中でタグの中も検索するかどうか、指定できるようになっている。

で、それぞれやってみた結果はどうだったのか……というどれも全滅。結局、問題のニューヨークに引っ越した「インタラクティブいも畑」にはたどり着けなかったのである。

## ⑨ 検索エンジンの特徴を見極めてから利用しよう

さて、その後、いろんなやり方をしてみたが、分かってきたことがある。誌面も少なくなってきたので簡単にまとめておくと、次のようなことになる。

まず利用する側としては、検索サービスがどういう形でデータを登録しているかをちゃんと見ておくことが必要だ。逆にホームページ製作者には、日本ではNTTの新着情報が元データとなることが多いので、少なくともここくらいは登録しておいてもらわないと検索しても出てこないということになる。実は、ホームページを立ちあげた人のために、一度に複数の検索サーバーに登録してくれる「Submit it!」(<http://www1.nisiq.net/jsengine/submit-it/index.html>)などのサービスがあるので、自分のページを数多くの人に見てもらいたいのであれば、まずは登録しておいてもらいたいものである。

自己申告による登録とは別に、ロボットで情報を集めているところもあるが、ご主人様（検索サービスのウェブマスター）の

好みでロボットの行動範囲に偏りがあるため、検索をしようとする側はそれぞれの検索サービスのキャラクターを見抜く必要もある。

次に注意したいのは、「この検索サービスはJPドメイン（つまり、URLの最後が「.jp」で終わっているもの）のものを対象としています」という検索サービスが意外に多いことだ。

実は、サーバーがどこにあっても情報の中身とは関係ないのだが、国外にあると日本のロボットが検索をかけてくれなかったり、検索サービスの側がJPドメインだけをリストの対象にしている、データを加えてくれないという不都合もあるんじゃないかな、と思う。

それでは米国の検索サービスではどうか、と思って例の「インタラクティブいも畑」を探してみたところ、「Infoseek Guide」「Excite」「Yahoo!」「Lycos」「Magellan」といった大手は全滅。唯一ちゃんと検索できたのは「Alta Vista」([http://cgi.netscape.com/www\\_s/inserts/altavista\\_search\\_dist\\_ad.cgi](http://cgi.netscape.com/www_s/inserts/altavista_search_dist_ad.cgi))だけだった（ただし若干文字化けする場合もある）。

最近、値段が安いからという理由で海外（特に米国）にサーバーを置いたり、カッコいいからと「com」ドメインを取ったりする人や企業も増えているらしい。しかし、そういう場合、日本の検索サービスにリストアップされない可能性もあるから積極的に働きかけないとまずいんじゃないだろうか。そんな事情も考えたら、やっぱり検索サービスの中では「Alta Vista」が一番使えるかもしれない……というだれのためのアドバイスが分からない結論（とは言っても、結局ユーザーの利便と関係するんだが）らしきものが出たところで、今回の探検はおしまいである。



「インタラクティブいも畑」が検索できないサーチエンジンもあった。



探検してみたサーチエンジンURL一覧

Infoseek: <http://www.infoseek.com/>  
Lycos: <http://www.lycos.com/>  
Magellan: <http://www.mckinley.com/>  
Excite: <http://www.excite.com/>  
Yahoo!: <http://www.yahoo.com/>  
千里眼: <http://www.info.waseda.ac.jp/search.html>  
ODIN: <http://kichijiro.c.u-tokyo.ac.jp/odin/>  
TITAN: <http://isserv.tas.ntt.jp/chisho/titan.html>



### AFTER CARE

6月号の「インターネット探検隊 専用線接続編」では、専用線用のモデムとしてDesk Porte FAST The V.34を使用しましたが、読者の方より、実際にME2814II（オムロン（株））やPV-AF288（アイワ（株））を使用して専用線接続ができたという報告もありました。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)